

CMSC JOURNAL

Vol.7



◀山内伸弥選手 第6戦のアドバン山内・山口組スタリオン▶

▼第6戦のアドバン羽豆・丸山組スタリオン 羽豆宏一選手▶



'85 JAF全日本ラリー選手権 めざせチャンプ! 先鋭ラリーストたち



▲第3戦のアドバン大庭・小田切組スタリオン 大庭誠介選手▶



◀藤田哲也選手 第3戦のCMSC福島 藤田・吉田組ランサー▶



▼第5戦のCMSC栃木 亀田・中村組ランサー 亀田恒夫選手▶



◀大西康弘選手 第6戦のCMSC青森 大西・村上組ランサー▶

スタリオン、堂々デビュー! 第4戦2位、第5戦5位、第6戦2・3位 CMSC勢ランサー、第4戦5・8・10位、第6戦9位

スタリオン、ポテンシャルを実証 第3戦“関西ラリー'85”

約1カ月半のひと休みも、スタリオンラリー車発表会準備やらであっという間に過ぎてしまった。あの発表会では、久しぶりに各支部の方々とお目にかかれて楽しい時を過ごせた。当日、ラリー出場のために早く帰ったCMSC岐阜のメンバー、そしてラリー開催のために参加もできなかったCMSC香川の方々、本当にゴメンナサイ。

さてJAF戦第3戦は、日本版ツールドコルス・ターマックスペシャルの珍しいラリー、“関西ラリー'85”。話題はニューカーのスタリオンとフェアレディZ、そして昨年までの地元スペシャルリスト・ゴーチン、ハットトリックを達成し、4連覇成るか?であった。

第1ステージはスポーツピア大和でのダートトライアル2本。昨年はいわれわれ羽豆チームが1位となっている。でも羽豆選手がスタリオンに乗るのは天理市のスタート地点が初めてだ。さて、今年はどうなるのやら…。しかし走り出してしまえばそんな心配も振り切り、ADVANスタリオンを手足のように操って(?)見事2位のタイム。このラリーにわれらがCMSC勢は、福島藤田選手、そしてここまでのJAF戦ポイントリーダー、青森の大西選手が、いずれもランサーを駆って出場。ギャラリーは早くも藤田選手の迫力ある走りどきも抜かれたようで、土手からころげ落ちる人まで出る始末であった。今年はタイヤサービスの回数も増え、いつもと違いCPカードを持つてのスタート。なんとなく海外ラリーの気分である。

さて本番の第2ステージ。伊賀上野のサービスエリアをスタートして、SS3はキャンセル、SS4手前で時間調整。コルディア4WDで2戦連続3位に入賞し気を良くしている松本選手、今回からは86。スベーカーをつぶし(?)十分に練習を積んで今回こそは3位以上の入賞を、と狙っている。われわれは練習無し、車も初めて。これでは…?と思いつつも頑張るゾ!とスタート。10カ所のSSを終え、再びサービスエリアへ戻る。日下部コルディアが右リ

ヤサイドを大きくへこませて止まっていた。

初めてのスタリオンもなんとか感じをつかみ、気合いを入れて再スタート。前は綾部選手。2ステでは大きく離れていたが、3ステに入ってタイムを比べると、ほぼ同じ。よし、これならいける!16SS、今井林道を終わり右コーナーを3rd全開で行き、続く大きなゆるい左コーナーもこのまま全開!ところが出口は直角左コーナー!!右はガケ下!!あつという間にガケとキス。われわれの関西ラリーは終わった。右テンションロッド折損、ロワーアーム破損、リヤロワーアーム曲り、その他板金数カ所、という結末。しかし、スタリオンは速い!

結果は驚異のゴーチン4連勝!松本選手連続3位入賞、そして健闘の大庭スタリオンが6位。藤田選手と大西選手は修理代の請求書が目に見えろ!

羽豆スタリオン2位 CMSC 福島・藤田ランサー5位 第4戦“ACKスプリングラリー'85”

いよいよ本格シーズンインの第4戦は九州を舞台に、“ACKスプリングラリー'85”。過去3年、2位2回、優勝1回と、われわれにはツキのあるラリーである。CMSC勢は藤田・大西両選手に加え、栃木からあの亀田選手もランサー勢に加わる。それに、突貫工事で修理なった日下部コルディア4WDと、三菱車が多く心強い。

好天の城島高原に勢揃いしたラリー車の姿、実にまぶしい。1ステは、ハイアベ区間とローアベ区間の組み合わせのオーソドックスなラリー。ダート用のサス設定を急ぐため、3台のADVANスタリオンは各車異なる仕様となっている。羽豆車のサスは好みに合っていないようで、どうも調子に乗り切れないままサービスポイントへ戻る。

第2ステージはSSのみ。早速サス交換をして準備に入る。例年、SSステージで挽回して上位に入賞しているので、これから勝負。ゼッケン1のため後続車のタイムがわからず、ペースの見当がつかないがかなりのペースで2ステを終了。ゴールするドライバーたちから情報を集める。1ステの上位



車の多くがリタイアとのこと。“2連勝かな?”と秘かに期待して表彰式を待つ。大西・藤田・亀田らのランサー勢も無事ゴール。みんな、かなり良いポジションにつけていそうである。

結果。期待は見事に裏切られ、群馬スペシャルリストの石田(正)選手が優勝、羽豆スタリオンは2位。藤田・亀田・大西のランサートリオはそれぞれ5・8・10位に入賞。久々に10位中4台が三菱車という素晴らしい成績である。

大庭スタリオン5位 第5戦“ツールド四国'85”

リタイア・2位・リタイア・2位というのが4戦までの結果。このパターンでいくと次はリタイア?などは少しも考えず、四国こそは!との思いで松山入り。第5戦“ツールド四国'85”。

スタート地点、まわりに何も無い伊予厚生年金会館でおとなしくスタートを待つ。今年のJAF戦、ラリーアートからは須賀さんが毎回取材に来ていた。取材のサポートは、CMSC香川の田中さん。名物の讃岐うどんとともに、5時間の道のりを駆けつけてくれた。うどんをごちそうさま、とってもおいしかったですよ。

今年のツールド四国は、例年と異なり関西ラリー方式の、再スタートハイアベとトランスポート区間と継いだ、要はSSばかりの、それにターマック区間が半数を占めるラリーで、まるで関西ラリーパートII。

SS1をスタートすると半ばでコース脇に伸弥スタリオンが止まっている。早くもリタイア。今年の伸弥はいったいどうしたのか? 1ステの後半はターマック区間となるため、トランスポート区間でのタイヤ交換が勝負となる。

トランスポート区間がどのくらいあるかは、当然事前にはわからないはずであるが、関西ラリーを制したトリオはしっかりタイヤ交換を実施。

ターマックに自信をもつゴーチンが快走している。期待の15インチのNewタイヤも、ターマックが多くては勝負にならず、1ステを終わって15位あたりに低迷。ジャンケンに勝ってHF-Dを選んで大庭選手がスタートから好走、まずまずのポジション。美川スキー場でサービスを受け、HF-D4本を積みこんでスタート。…したのもつかの間、1本目のSSゴールひとつ手前のコーナーで、調子に乗ってインを取めたところに大岩!! あっけなくリタイア。昨年といい、この美川スキー場から先には進めないようである。

これで、予定のパターン(?)。結果はまさに関西ラリーパートIIで、ゴーチン・誠・前島選手がそれぞれ1・2・3位。大庭選手はタイヤバーストがあったにもかかわらず、地元永井選手について5位。伸弥が不調のときは大庭選手が頑張るというパターンができあがりつつある。前回好調のランサートリオも今回はふるわず、藤田・大西両選手はバースト・リタイア、亀田選手が17位にとどまった。

さて今回は再び九州にて、ツールド九州。パターンどおりなら2位だが、小生はランサーでマレーシアラリーに遠征のための不参加となった。あのケンジロー選手と海外遠征、合わせてコルディア4WDが伸弥/小田切組で出場。ランサーとコルディアの2カーエントリー、“チーム・ラリーアート”の海外遠征に乞うご期待!

CMSC 香川

四国フレッシュマンシリーズ第2戦を主催
7月7日には'85アストロトライアル

CMSC香川主催・'85CMSCラリーin香川が、2月23・24日、参加車35台を集めて開かれました。白鳥町をスタート、香川県内100km・徳島県内100kmのコースを走り、大窪寺をゴールとする設定。当日は静岡で「スタリオラリー車発表会」が開かれたため、審査委員長に予定していたCMSC本部・外川会長の出席がかなわなかったのは残念ですが、会場は大盛況。ランサーインタークーラーポを駆

ってCクラスに出場した松本・森本組(蜂須賀ドライバーズクラブ所属)が2位入賞を果たし、さらに三菱賞を獲得しました。



CMSC 島根

好調子の波に乗り、快走！
'85日本海ダートラリーチャンピオンシリーズ

3月に臨時総会を開き、8月18日に一戦主催することを決定。ぜひ成功させたいと、意気盛んです。

4月21日の'85日本海ダートラリーチャンピオンシリーズ第2戦には、国谷益雄選手がA73で出場し、7位。続く5月12日の第3戦には杉坂啓一選手がFTOでDクラスに出場。5位入賞を果たし、同じくFTOでダブルエントリーした杉原正昭選手は第6位。第2戦

に引き続きA73で出場した国谷選手が8位と、好成績をおさめています。



CMSC 岐阜

結成10周年！
誓い新たに、三菱車快走！

CMSC岐阜では、結成10周年を記念し、6月8・9日、恵那市で総会・練習会を行いました。会員が各地区に分散していて、1月の総会以外は全体で集まる場がありません。これを機会に練習会などを増やし、結束を強めていきたいとのこと。会長の浅野博孝選手と古田尋重選手のコンビは、5月18・19日、CMSCハイランドジュニアラリー'85に出場、Cクラス4位の

好成績をおさめました。また、6月1・2日に行われた、ラリーアート協賛第5回チームエンゲイラリーミーティングではCクラス44台中24位でした。



CMSC 栃木

'85ダイヤスターラリー
審査委員長はCMSC福島・菅野茂会長

CMSC栃木主催、栃木三菱・南栃木三菱協賛による'85ダイヤスターラリーが6月1・2日に行われました。

五十里湖観光センター駐車場を基・終点とし、県道藤原宇都宮線～八方が原観光道路～塩原元湯で折り返す1ステ、湯西川～大笹牧場～霧降高原・今市で折り返す2ステというコース。栃木県は林道が使えないため、280kmのコースはオール舗装路。初・中級者が全員オンタイムできるアベレージ設定になっています。

審査委員長にCMSC福島の菅野茂

会長を迎え、Aクラス17台・Bクラス39台で競われたこのラリー、萩島・片桐組(UMSC所属)のランサーターボが優勝するなど、三菱車大活躍！萩島・片桐組は三菱賞も獲得しました。



CMSC 青森

館山選手コルディア4WDで
目指すは東北シリーズチャンピオン！

2月の田沢湖ウィンターラリーで優勝、幸先よいスタートを切った館山正嗣選手。5月12日のOCC青森ダイナミックダートトライアルでも、見事B

IIクラスそして総合優勝を果たしました。

館山選手にとっては、コルディアで迎える初めての夏。6月15・16日の東北シリーズ第2戦・栗駒山アルペンラリーにはテストをかねて出場し5位に入賞。優勝はCMSC福島 藤田選手。6月29・30日に行われる'85ツール東北をはじめとする全日本ラリーに、万全の構えで臨みたいと意欲満々の館山選手です。



CMSC 福島

福島県ダートトライアルシリーズ第3戦
BIIクラス1~3位独占、
ラリー車クラスでも優勝！

6月9日、福島県エビスサーキットで開催された福島県シリーズ第3戦・'85チーム石楠花ダートトライアルインエビス。あいにくの雨にもかかわらずCMSC福島勢はBIIクラスで1~3位を独占、ラリー車クラスでも優勝するという快挙をなしました。

BIIクラス優勝の高野正信選手は、ランサーからコルディア4WDに乗り換えてのアピュー戦初勝利。「コルディア4WDは乗りやすい車。これから

もどんどん優勝をさらいますよ」と張り切っています。
また、菅野茂・畠山幸記両選手がオフィシャルとして参加しました。



●菅野茂選手、コルディア4WDで5連勝！

月日	競技会名	順位
4月14日	チームアヤベ・ダートトライアル	優勝
4月28日	ダートトライアル山形(山形県ダートラリーシリーズ第2戦)	優勝
5月5日	ダートトライアル仙台(宮城県ダートラリーシリーズ第1戦)	優勝
5月12日	チームマサミ・ダートトライアル'85(東北選手権第2戦・B地区選抜選・第2戦)	優勝
5月26日	OCC岩手ダイナミックダートトライアル	優勝

CMSC 札幌

森・吉岡組、ランサーインタークーラーポで
Cクラス8位入賞！

'85グラベルカップシリーズ第2戦・スプリングインクレストが、快晴に恵まれた5月18・19日に行われました。

札幌の北、浜益村をスタート地点とし、約200kmを走って再び浜益村へと戻るコース設定。CMSC札幌からは5台がエントリーしました。そのなかでひととき活躍していたのが、森和義・吉岡幹雄組。ランサーインタークーラ

ターボを快調に探り、8位入賞を果たしました。



未知の可能性を秘めて

スタリオンラリー仕様車、CMSCに事前披露



ケンジローも絶賛の、スタリオングループA仕様車

去る3月23日(土)、JAF全日本ラリー選手権3戦以降の出場に先立ち、スタリオンラリー仕様車の披露会が報道披露をかねて実施されました。また、この日、同時にスタリオンのグループA仕様車もあわせて披露されました。

会場の静岡県・御殿場に集まったCMSCのメンバーは本部支部あわせて42名。タスカエンジニアリングの石黒

社長をはじめ、JAF戦でおなじみの山内選手や日下部選手、ダートラのトップドライバー国政選手…と豪華な顔ぶれがそろいました。

この披露会で外川会長は「JAF2戦では青森の大西選手が優勝をかざり、CMSCとしては大いに意気があがります。これからもチャンピオンをどんどんだしたいと思います」とあいさつ。

また、ラリーアートゼネラルマネージャーからは「コルディア4WDが全日本で2連勝。3戦以降、アドバンチームからスタリオンで出場します」と報告がなされました。

ラリーアートでは、スタリオンラリー仕様車をJAF戦に出場させながら、じっくり熟成させていきますが、今秋にもこのスポーツキットの国内外同時発売を計画しています。

このスタリオンラリー仕様車に田口選手は「WCRをターゲットにするとき、国内仕様としての200PSのD

ASHエンジンをもつスタリオンは格好のマシン」とコメントを寄せています。また、実際にグループAのスタリオンに乗った篠塚選手は「予想以上に乗りやすい。グループAスタリオンの開発は始まったばかりなのに、将来的にも非常に可能性が高く、海外ラリー向きだ」と両選手とも絶賛。

先行手配していたラリーアートのスポーツキットもそろい始め、スタリオンのスポーツキットは、海外のグループA仕様車としても組込まれることになるでしょう。



披露会に先立ち、外川会長のあいさつ



御殿場に集まった42名のCMSCメンバー

スタリオン国内ラリー仕様車(概要)

ベース車：スタリオンGSR-V (SIRIUS DASHエンジン〈200PS〉搭載)

国内ラリー仕様

サスペンション	
●フロントストラット	RALLIART試作品 (C=225/140kg)
●フロントスプリング	RALLIART試作品 (K=2.8kg/mm)
●フロントスタビライザ	ノーマル (RALLIARTスポーツキット開発中)
●ストラットインシュレータ	ビローボールタイプ (強化ゴムタイプをRALLIARTスポーツキットとして開発中)
●テンションロッドブッシュ	
●フロントローアームブッシュ	
●リヤストラット	RALLIART試作品 (C=190/140kg)
●リヤスプリング	RALLIART試作品 (K=2.4kg/mm)
●リヤスタビライザ	ノーマル (RALLIARTスポーツキット開発中)
●リヤローアームブッシュ	ノーマル (RALLIARTスポーツキット開発中)
インシュレータ	
●エンジンマウント	RALLIARTスポーツキット (強化品)
●T/Mマウント	RALLIARTスポーツキット (強化品)
●デフマウント	ノーマル (RALLIARTスポーツキット開発中)
●リヤメンバーマウント	ノーマル (RALLIARTスポーツキット開発中)
T/M & デフ	
●T/M	RALLIARTスポーツキット直結5速T/M (1ST 2,853 2ND 2,113 3RD 1,582 4TH 1,233 5TH 1,000)
●クラッチ	RALLIART試作品 (押付荷重 730kg)
●デフ	RALLIARTスポーツキット (デフ比4.625)
ブレーキ	
●フロントブレーキパッド	RALLIART試作品 (フェロードDS11)
●リヤブレーキパッド	RALLIART試作品 (フェロードDS11)
その他	
●ロールバー	RALLIART試作品 (アルミ6点式)
●アンダーガード	RALLIART試作品 (アルミ合金製)
●タンクガード	RALLIART試作品 (アルミ合金製)

